



研究テーマ

- 1 ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型陽性膠原病リウマチ性疾患のレジストリ研究
- 2 重症熱性血小板減少症(SFTS)を主としたダニ媒介感染症の診断・治療の開発
- 3 新興・再興感染症の研究推進に資するバイオリソースの構築



梅北 邦彦

うめきた くにひこ

医学部
医学科
内科学講座
呼吸器・膠原病・
感染症・脳神経内科
学分野

准教授(診療科長)

キーワード

ヒト T 細胞白血病ウイルス、関節リウマチ、自己免疫疾患、人獣共通感染症、ダニ媒介性感染症、新型コロナウイルス、COVID-19、診断試薬、抗ウイルス薬

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

関節リウマチや膠原病といった自己免疫疾患の病態解明やウイルス感染症の研究を推進しています。ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV-1) 感染症の膠原病リウマチ性疾患への影響を解明すべく、日本で唯一の HTLV-1 陽性膠原病リウマチ性疾患患者のレジストリ研究を運営しています。

また、宮崎県で感染者の報告が多い SFTS の迅速診断試薬や治療法の開発を行っています。その一環として、SFTS ウイルスや新型コロナウイルスを生物資源として利活用し、感染症研究を推進するためのバイオリソースの構築を進めています。

1 関節リウマチや膠原病は、原因不明の難病です。近年、免疫抑制療法を中心とした治療の進歩により、患者さんの予後は著しく改善しました。ところが、その一方で、免疫抑制作用による感染症や発がんに関する臨床的課題が浮き彫りとなっています。HTLV-1 は、成人 T 細胞白血病 (ATL) の原因ウイルスですが、その感染者は南九州に多くおられます。HTLV-1 感染は生涯続く慢性感染症です。HTLV-1 感染のある膠原病リウマチ性疾患の患者さんの臨床的特徴には不明な点が多く、特に、免疫抑制療法が HTLV-1 感染症にどのような影響を及ぼすのか定見がありません。ATL を発症しやすくなるのではないかと、いった患者さんの不安は計り知れません。HTLV-1 感染流行地域は、先進諸国では日本だけです。したがって、HTLV-1 感染症と膠原病リウマチ性疾患の最先端の研究は本邦でしか成し得ません。私たちは、世界的にも類を見ない、世界で唯一の HTLV-1 陽性膠原病リウマチ性疾患患者さんのレジストリ (患者登録) 研究を運営しています。この研究基盤を活かして、この分野の世界の臨床的課題の解決に貢献します。

2 SFTS は、ダニに咬まれて発症する SFTS ウイルス感染症です。非常に致死率が高い感染症として有名ですが、宮崎県は全国でも SFTS 発生件数が最も多い地域です。また、SFTS はヒトだけでなく、ネコやイヌといった愛玩動物にも発症しますので、ヒトと動物に共通する感染症 (人獣共通感染症) として問題です。SFTS の致死率の低減には、早期診断・治療が重要とされますが、未だに有効な治療法がないのが現状です。私たちは、SFTS の早期診断技術の確立、治療法の開発に取り組み、SFTS 患者さんの多い宮崎県の医療への貢献を目指しています。

3 世界的流行となった新型コロナウイルスは、今もなお収束の目途が立たず、多くの人々に危機的影響をもたらしています。感染症が世界的脅威になりうることを、多くの人々があらためて認識したと思います。今後も起こりうる感染症の脅威に対峙すべく、ウイルス感染症の治療薬やワクチンの開発を目指す研究基盤は非常に重要です。私たちは、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター (CADIC) と共同で、新型コロナウイルスや SFTS ウイルスなどを生物資源として利活用するためのバイオリソースを構築・運営しています。感染症の脅威から、たくさんの人々を開放できる研究を推進します。

ホームページ

1. <https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/>
2. <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/menekikansen/>

技術相談に応じられる関連分野

該当なし

メッセージ

共同研究の希望テーマ: ウイルス感染症の迅速診断試薬の共同開発、抗炎症物質の探索による膠原病リウマチ性疾患およびウイルス感染症の新規治療薬の開発